

藪岩稜へのいざない

## 西上州 風穴尾根～丁須の頭

今年も来ました、藪岩稜シーズン。去年初藪岩の竹澤さんからうれしいオファーがあり、計画することになった。蓋を開けてみるとなんと6人パーティー！藪岩へのいざないとして、以前は登山道のあった(?)風穴尾根を抜け丁須の頭へハイキングすることにした。

11月6日(日)：晴

天気は快晴、紅葉は今が盛り。元国民宿舎裏妙義にはギッシリ車が入り、ヘルメットやロープを携えた登山者で賑わっていた。藪岩稜はブームになったのか!?初めて見る人の多さに戸惑う。丁須の頭へ向かう登山道を少々歩き、適当なところから左手の小沢に入る。ほとんど水の無い沢沿いにぐいぐい登っていく。ルーファイが適当でも何とかなるかな、と思っていたのが間違いで、岩壁に行き当たったところで右に左に少々ウロウロしてしまった。悩みながらも大きく左へ巻いていくと、竹澤さんが左手の沢沿いに赤布を発見した。どうやらこの沢を上がってくるのが常道だったようだ。再び沢沿いに詰めていくとまたもや岩壁に行き当たる。偵察してみると右上したところが鶴峯山直下のコルだった。ここまでは適当すぎる私のルーファイにメンバーを連れまわした状態だったので、若干皆さんの表情が陰って見える。山城ならではの岩と灌木の脆さに、出だして皆さんを藪岩稜嫌いにしていないか気が気でない。とりあえず気



【風穴の下で】

【日程】

2016年11月6日(日)

【メンバー】

大田原(L)、竹澤、煤孫、森山、小林、長山

【グレード】

2級?

【地研図】

南軽井沢

【記】大田原



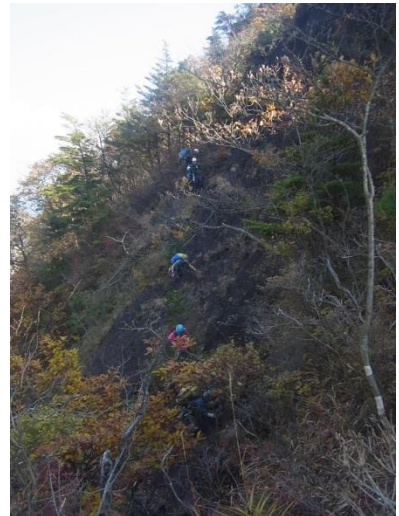
【高度感たっぷりのバンド】

を取り直して、鶴峯山から縦走スタートだ。すぐに岩稜となるが、うまくバンドを拾える。だが、高度感たっぷりでミスは許されない。計画書に「ハイキング」と記していたので、予想外の怖い思いをさせてしまったかもしれない。ちょっとしたギャップは5mほど懸垂で降りた。岩稜上を行くか、うまく巻けるのか、判断に迷う場面も出てくる。大きく巻く部分も出るのかと思っていたが、結果的に、風穴尾根で巻く場合は小さく巻ける。小さく巻けないものは岩稜上を簡単に通れた。尾根の名前である風穴は、岩峰帯の真ただ中であつた。それは思いのほか大

きく、下で休憩していると岩が落ちてこないか心配になるほど脆そうなものだった。いつか屋根部分が崩壊してギャップの一つになるのだろうか。風穴を抜けた後はロープを出すこともなく、最後の岩峰を巻いた後は、紅葉が眩しい平和な尾根道に変わった。風穴尾根の頭で大休止とする。ここからは一般登山道となるので安心だ。安心、なのだが、そこはやはり西上州。一般ハイカーが通るとは思えないような鎖場や岩裾の巻道もあり、ヘルメットを外す気になれない。丁須の頭ではガイド山行と思われる一団が登攀中。休憩しながら空くの待って、我々も登ってみることにする。鎖を力任せに登る形なので、煤孫さんにロープを張ってもらった。岩の上は狭く、5人（小林さんは撮影係で登らず）でたむろするのは窮屈で、記念写真もままならなかった。セルフビレイはタコ足配線状態。早々に懸垂下降に移る。しかしつぺんは眺めがよく、吹く風は心地よく、もっとゆっくりしていたかった。夕暮れが迫る登山道を落石注意で足早に下っていくと、暗くなる前に駐車地にたどり着くことができた。

**【行程】**

駐車地(8:00)～鶴峯山(10:20)～風穴尾根の頭(13:00)～丁須の頭(14:10/15:30)～駐車地(16:45)



【最後の岩峰を巻く】



【風穴尾根全景】